

🍴 言語 1 🍴

- 11:00-11:30 山本博子「本を活用した書く能力を育成する授業の試み」
- 11:30-12:00 京祥太郎「外国人留学生のための新聞記事を活用した日本語学習教材について」
- 13:00-13:30 中田一志「高次のコミュニケーションとして捉えた聞き返し『なに?』を中心に」
- 13:30-14:00 下村朱有美「視覚に障害をもつタイ人高校生を対象とした日本語教材の点字版作成の試み—既存教材の分析と今後の展望—」
- 14:00-14:30 中山英治、坂口昌子、鄭惠先「日本語学習者向け日辞典に必要な外来語の語義と文法情報—新聞で使用される『コメント』を例に—」
- 14:30-15:00 藤平愛美「教育実習の授業見学に代わる配信授業視聴システムの構築」
- 15:15-15:45 立川真紀絵、簡珮鈴「e-Learningによる参加型日本語学習の実践と課題—地域市民に対する教材公開から—」
- 15:45-16:15 加藤伸彦「母語話者が学習者との『経験の共有』型タスクで用いるコミュニケーション方略と訂正フィードバック—初級レベルにおけるタスクの会話の分析から—」
- 16:15-16:45 井元麻美「日本語学習者の語彙習得過程に基づいた語彙のe-learning教材の開発—『みんなの日本語中級I』に準拠した教材—」

🍴 言語 2 🍴

- 11:00-11:30 依田悠介「タイ語と日本語の名詞の見方—数の数え方から認識へ—」
- 11:30-12:00 松井夏津紀「ドラマのセリフにおける主語の出現」
- 13:00-13:30 植田志穂「従属節中に現れる『無影響』の受身文が持つ叙述機能」
- 13:30-14:00 ターインタ・ブーワット「日・タイ語の日本語学系の学術論文の提言部分におけるモダリティの使用—結論の提言におけるモダリティの使用を中心に—」
- 14:00-14:30 ラッタナポンピンヨ・プラッチャヤポーン「『ハズダ』と『nàcà』—現代ドラマや小説に現れる表現の考察—」

- 14:30-15:00 トウトウヌエエー「日本語とビルマ語における格助詞交替の再考—格助詞ととりたて助詞—」
- 15:15-15:45 汪聞君「後置文における指示代名詞の感動詞的機能—日本語と中国語を比較して—」
- 15:45-16:15 張瓊方「疑問文における終助詞『よ』」
- 16:15-16:45 小亀拓也「『発見』のタについて」

🍴 言語 3 🍴

- 11:00-11:30 高井美徳「『価値観が異なること』を通して可視化される共-成員性—日本語母語話者の友人間の雑談におけるライフプランをめぐる価値観のやりとりの会話分析—」
- 11:30-12:00 大和祐子「非漢字圏日本語学習者による漢字の書字的認知処理における語彙知識の影響」
- 13:00-13:30 小森万里「意見文と学術論文におけるダロウの使用について」
- 13:30-14:00 坂口昌子「インターネット上の資料を正しく引用して書くレポート指導」
- 14:00-14:30 クドヤーロワ・タチアーナ「ロシア語と日本語の新聞コーパスに見られる略語使用—共通点、相違点、教育における展望—」
- 14:30-15:00 福池秋水「漫画キャラクターの話し言葉におけるラ行音の撥音化」
- 15:15-15:45 エルハディディ・アブデルラフマーン「自動詞・他動詞の習得研究—学習者のレベルの上達と誤用の変化について—」
- 15:45-16:15 カンジャマーボンクン・サティダー「感情の表出の観点から見た繰り返し表現の機能」
- 16:15-16:45 三谷彩華「研究論文における『終了部』の文章構造分析—日本語学・日本語教育学を対象に—」

🍴 言語 4 🍴

※文化2と同部屋

- 15:15-15:45 有田節子「『ネオ・デジタルネイティブ』世代の言語意識—『気になる日本語』を通して—」
- 15:45-16:15 ラッタナセリーウォン・センティアン「韓国母語話者囲碁棋士の日本語習得について」

2018
JST
タイ国日本研究国際シンポジウム2018
メディア時代の
日本研究
基調講演
「日本語文学の領域」
坪井秀人（国際日本文化研究センター教授）

主催：チュラーロンコーン大学文学部東洋言語学科日本語講座
共催：国際交流基金バンコク日本文化センター
大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻
後援：タイ国トヨタ自動車株式会社
日時：2018年 8月 25日（土）
8:15-9:00 受付（1Fのロビー）
9:00-9:15 開会式（3F 303-304）
9:15-10:45 基調講演
11:00-16:45 研究発表（言語・文学・文化）
会場：チュラーロンコーン大学文学部 MCSビル
使用言語：日本語
詳しくは、こちらをご覧ください。

TOYOTA
国際交流基金
バンコク日本文化センター
大阪大学大学院言語文化研究科
日本語・日本文化専攻

絵:中川歩美

🍷 プログラム 🍷

- 8:15-9:00 受付 (1Fのロビー)
- 9:00-9:15 開会式 (3F 303-304)
- 9:15-10:45 基調講演 (3F 303-304)
- 坪井秀人 (国際日本文化研究センター教授)
- 「日本語文学の領域」
- 10:45-11:00 休憩
- 11:00-12:00 研究発表 (言語・文学・文化)
- 12:00-13:00 昼食 (9F)
- 13:00-15:00 研究発表 (言語・文学・文化)
- 15:00-15:15 休憩
- 15:15-16:45 研究発表 (言語・文学・文化)
- 16:45-17:00 閉会式 (9F)
- 17:00-18:00 懇親会 (9F)

🍷 文学 1 🍷

- 11:00-12:00 パネル 1 日高佳紀、高橋幸平「フィクション論と現代日本文学—筒井康隆・村上春樹テキストを読む—」
- 13:00-14:00 パネル 2 久保昭博、西川貴子「事実への欲望—1920・30年代の『実話』ジャンルをめぐる—」
- 14:00-14:30 笹尾佳代「スキャンダル報道言説への反照—柳原白蓮『荊棘の実』の位相—」
- 14:30-15:00 ホルカ・イリナ「〈事実性〉と〈フィクション性〉のはざま—島崎藤村の自伝的小説—」
- 15:15-15:45 飯田祐子「左翼情報の流動性とジェンダー—『女人芸術』と『戦旗』—」
- 15:45-16:15 坂東実子「夏目漱石『三四郎』—新聞連載小説というメディアの力に関する考察—」
- 16:15-16:45 木村千佳「明治のメディアと夢野久作」

🍷 文学 2 🍷

- 11:00-11:30 パネル 3 染谷智幸「現代日本のBL文化と古典の再評価」(A) —「西鶴『男色大鑑』研究におけるエンターテインメントとアカデミズムの協働」
- 11:30-12:00 パネル 3 畑中千晶「日本のBL文化と古典の再評価」(B) —「西鶴『男色大鑑』の挿絵における視覚的効果と現実について」
- 13:00-13:30 有澤知世「合巻における名所図会利用—古典知識の受容に注目して—」
- 13:30-14:00 シェーク・タリク「近世文学の周縁部—鈴木牧之の『秋山紀行』をめぐる—」
- 14:00-14:30 瓦井裕子「『源氏物語』少女巻の風に吹かれる竹」
- 14:30-15:00 ケオフォンランシイー・ペンポーン「近代文学における『社会講談』—堺利彦の『桃太郎』を中心に—」

🍷 文学 3 🍷

- 11:00-11:30 彭雨新「北京時代の林房雄と『香妃の妹』(1946) —日本占領期の北京における現地日本語メディア『東亜新報』を手がかりに—」
- 11:30-12:00 莊千慧「日本語雑誌『民俗台湾』にみる〈日本人〉の境界と日本語文学の臨界」
- 13:00-13:30 徳永光展「山崎豊子『二つの祖国』に描かれた日系アメリカ人」
- 13:30-14:00 久保田裕子「アンコールの彫像—三島由紀夫『癩王のテラス』—」
- 14:00-14:30 橋本順光「翻訳されたタイ表象—モームの『九月姫とウグイス』(1922) と光吉夏弥の翻訳(1954) —」
- 14:30-15:00 何問民「ペン部隊の一員としての林芙美子が見た中国人—『戦線』と『北岸部隊』を中心に—」
- 15:15-15:45 山下聖美「林芙美子の文学における多文化共生の思想」
- 15:45-16:15 ベーケー・リサ・マリア・サラ・アンナ「巖谷小波の児童文学の出発点—“Über japanische Volksmärchen”(1902) を中心に—」
- 16:15-16:45 野中咲希「尾崎翠『第七官界彷徨』における『第七官界』について」

🍷 文化 1 🍷

- 11:00-11:30 北村武士「昭和10年代のバンコク日本人社会—星田晋五資料から伺えること—」
- 11:30-12:00 酒井健太郎「1937年の訪暹音楽・舞踊使節について—日本とタイの文化交流の一事例として—」
- 13:00-13:30 小橋玲治「E. P. ヒュースによる女性への登山奨励の余波—タイへの影響も視野に—」
- 13:30-14:00 梁仁實「韓国映画における『負の記憶』と日本への受容」
- 14:00-14:30 ベレジコワ・タチアナ「人形大使と近代日本—ファッション特使から外交人形まで—」
- 14:30-15:00 増田幸子「NHK 朝の連続テレビ小説における『昭和20年8月15日』」
- 15:15-15:45 平松秀樹「タイ民話『12人姉妹』と現代メディアでの展開—日本民話における共通〈モチーフ〉とともに—」
- 15:45-16:15 橋本凜「漢語『洒落』の受容と展開」
- 16:15-16:45 劉玲芳「1910・40年代における日本人男性の『支那服』物語」

🍷 文化 2 🍷

- 11:00-11:30 岩井茂樹「『幽霊画』と視線—幽霊はなぜこちらを向くのか?—」
- 11:30-12:00 永原順子「怪異伝承と水難防止教育との関わりについて」
- 13:00-13:30 タマシ・カルメン「眠れる町の儀礼—西条祭りの考察—」
- 13:30-14:00 荒川裕紀「西宮神社十日戎開門『神事』がいかにして生まれたか—改暦・改元よりの考察—」
- 14:00-14:30 シビトゥーニナ・マリーナ「言語文化的な観点から見た「水」—『記紀』において—」
- 14:30-15:00 ブレニナ・ユリア「近代仏教とメディア—日蓮主義の場合—」
- 15:00-16:15 (言語4をご参照)
- 16:15-16:45 鄭恵先「テレビ番組の翻訳による出演者イメージの生成と変質—日韓・韓日翻訳の意識・誤訳の事例をもとに—」